

「地域が公共放送に求めるもの」

地 方都市では、観光資源が地域活性化の重要な要素となっています。

三重県津市では、大河ドラマ『江』^{※1}の放映をきっかけに、住民が「江」についての歴史を学んだり、キャラクターを使ったPR活動、ゆかりの地を巡るツアーの企画など、地域の活性化を目指す活動が活発になっています。今回は、活動している方から、公共放送が地域に与えている影響や、地域が公共放送に何を求めているかをお聞きしました。



飯田 俊司

大河ドラマ『江』地域活性化推進協議会会長
津商工会議所名誉議員・株式会社百五銀行相談役

プロフィール

1943年生まれ。早稲田大学卒業後、三重県の百五銀行に入行。取締役会長を経て相談役。現在、津商工会議所が事務局を務める「大河ドラマ『江』地域活性化推進協議会」会長。江が幼少期に滞在した伊勢上野城や津城をはじめとする観光資源を活用し、地域活性化の活動につなげる取り組みをしている。

「大河ドラマ『江』地域活性化推進協議会」というものを立ち上げ、ドラマと連動した地域興しを行っているのと伺っているのですが、発足と具体的な活動内容を教えてください。

2010年の7月に江姫が幼少の頃より過ごしていた三重県津市がドラマの舞台として登場することを知りました。

そこで、これを機に地域の観光資源を活用した地域活性化につなげようと、商工会議所、県や津市と共に地域活性化推進協議会を設立しました。津は全国的な知名度が低いため、多くの方に津を知ってもらい、津に来ていただく絶好の機会だと思いました。そこでまずは、江姫のことはもとより、大河ドラマがどのように出来るのかなど番組制作の裏側も含めてNHK番組関係者を津市に招いて勉強することから始めました。

協議会の主な活動としては、江姫にちなんだイベントの開催、PR活動、おもてなし事業の強化です。

イベントやPR活動としては、大河ドラマ制作に携わっているプロデューサーの方の講演会を企画したり、ゆるキャラ『ゴーちゃん』というキャラクターを使った着ぐるみを作って、県内だけでなく東京などにもキャラバン隊として



「大河ドラマ『江』地域活性化推進協議会」の発足と活動

出向いてPR活動を行っています。

この『ゴーちゃん』というのは、みなさんからの公募で決まったもので愛嬌のあるキャラクターです。これを、各企業に無料で自由に使ってくださいと持ちかけました。今では会社の名刺で使ってもらっているほか、100種類以上の商品が出来上がり販売されています。とにかく『ゴーちゃん』のキャラクターがいろんなところで見られるようにして、みんなの気持ちを盛り上げていこうと思つたのです。また江姫ゆかりの地を千円という低価格で見学するツアーも始めました。東京をはじめ、県外からもお客さんが来るほど好評です。

おもてなし事業では、市内の事業者の方々を集め、観光に来られた方々に来てよかったと思えるようなサービスを考えています。津では「うなぎ」が有名ですが、それ以外に何かないか、まさに今、みんなまで知恵を絞っているところですよ。

——今回、ドラマの舞台に関わることで影響はあるのでしょうか。

やっぱり影響は大きいですよ。残念ながら、津市は幼少時代のみで、しかも当時の記録が殆ど残っていません。でも、大河ドラマをきっかけに、我々が改めて地元の歴史を学ぶことで、新たな魅力の再発見がありました。

ただ、この活動が一過性になってしまうと、放送が終われば誰の記憶にも残らなくなってしまう。そこで、市に働きかけて、学校で郷土の歴史を学ぶ際に江姫の歴史について取り入れてもらうように働きかけています。江姫の歴史を知ること、戦国の激動の時代から江戸時代にかけて、女性はどのような生き方・考え方を持っていたか等も学べ

ますし、子供達の記憶にも残ると思います。そうすれば、将来大きくなった後も、周囲の人に江姫のことを伝えることができそうですし、津市内に江姫ゆかりの地があるとアピールしてくれるかもしれません。大河ドラマの内容だと、娯楽というよりは歴史という1つの文化として捉えられるのではないかと。ただ、信長や秀吉、家康といった戦国や龍馬などの幕末を中心にするのと、どうしても東京や大阪、名古屋や京都など舞台が限られてくる。地方としては、もう少し色々な人物にスポットを当ててほしい。例えば、三重県では藤堂高虎や九鬼水軍、北畠氏など。地方にスポットが当たると、地域の魅力を掘り起こすことにもなりますし、地域の活性化にも大いに繋がると思います。例えば、今回の『江』のお陰で、我々も津が非常に歴史ある町だと知ることができました。四天王寺に信長のお母さんのお墓があるとか、津観音という日本三大観音のひとつがあるのですが、そこも江姫に関係あるとか、一方で非常に栄えた場所でも第二次世界大戦で全部焼けてしまったとか。『江』に付随して建造物の歴史的価値や自分たちの住む街の歴史背景を学ぶきっかけになったのは大きいと感じましたね。

公共放送は、手間暇かけた番組制作を

——公共放送に期待する役割とはどのようなことでしょうか。

広告料を貰って放送する民間放送と、受信料で成り立っている公共放送。棲み分けが大事だと思います。民間放送に比べて視聴率を気にせずに手間暇をかけて番組を作る分、質の高い良い放送が出来ますよね。『NHKスペシャル』とか『歴史秘話ヒストリア』など、一つのテーマに対して国内や海外の色々な面からNHKが持っている情報をうま

くミックスして作られていますよね。これは公共放送ならではの番組だなど。地方や海外にいる人たちの取材力もそうですし、それをいかに面白く見せるかの企画力はすごいと思います。

ただ、あまり視聴率の縛りがないので、視聴者が求めている方向に突っ走ることがないように、そのあたりのコントロールは今後も必要だと思います。

放送法第三条にある、「公序良俗を害さない」、「政治的に公正である」、「報道は事実を曲げないですること」、「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」とありますが、まさにこれを実践して欲しい。

地域放送にもっと文化・芸能を取り上げる場を

——確かに、海外の主要都市や各県に放送局のネットワークがあるので、組織力、取材力の面を発揮できていると思います。その各県にある地域放送に求めるものはどのようなことでしょうか。

一つは防災情報。三重県では、東南海地震が30年内に発生する確率が数十%と言われています。やはり有事の際はNHKの番組を見聞きする方が多いでしょうから、その時、今どのような状況になっているか、次に自分たちのとるべき行動は何かといったことがわかるような放送を期待します。警察や消防に連絡をしても、恐らく繋がらないでしょうから、これは非常に大事な話ですよ。

もう1つは、教育や文化といったものを取り上げて欲しいですね。特に地方は、日本の芸能文化が弱いと感じます。情報は、テレビや新聞、インターネットで得ることができず、文化や芸能に触れ合うとなると、大都市に集中し

ていることが多く、地方では不便に感じます。

昔、私がアメリカでインターナショナルバンキングスクール^{※2}という研修に参加した時のことですが、インドネシアやフィリピン、台湾や韓国、南米諸国が参加していました。ある日、フィリピンの研修生から、「ミスター飯田、日本の『わび』って言葉はどういう意味」と聞かれたんですよ。日本語でも答えるのが難しいのに、英語で答えるのは苦労しました。こういう日本の文化を知っていないと、これからのインターナショナルな時代、日本人の文化度を上げないと、馬鹿にされてしまい、世界の中でまともに話してもらえなくなるのではないかと感じます。

——自分たちの育ったJAPANとは何なのかということをもっと知っておいた方がいいですよ。

大切ですよ。日本人が日本人であることを誇れる、日本に生まれて良かったと思えるものがないと、若い人は向上心がなくなってしまうのではないかと思います。そのためにも、もっと日本の文化・芸能といったものを、放送で取り上げ、触れる機会を作らなければなりません。これは民放ほど視聴率という縛りのないNHKでしかできないことです。

——地域放送局が、積極的に文化・芸能を発信するためには、どのような取り組みが必要でしょうか。

例えば、三重県には岡田文



※2「インターナショナルバンキングスクール」日本の都市銀行の米国外子会社主催による研修。南米やアジア、ヨーロッパの銀行員を集めて、国際的に活躍できるようにするのが目的。



化財団という、県内の文化振興のためにイオンの創始者である岡田卓也さんが基金を積んで設立されたものがあります。ここには、県内の文化・芸能を保存したいと、かなりの数の助成金の申請があります。地域にはまだまだ埋もれている文化・芸能があるんですよ。例えば、志摩市に安乗文楽^{※3}という人形芝居がありますが、こういった地方の文化を掘り下げて、県内、全国へ発信することが必要ではないでしょうか。それができるとNHKの一番の強みだと思います。手間暇かけてじっくりとしたものがあれば、視聴者の方から良かったよという評判が来る。これはコストに変えられないものだと思います。

地域放送局から全国へ発信を！

—— 地域放送局から発信する必要性はどのあたりにあると思われるか。

鳥インフルエンザのようなニュースは、全国メディアで報道されていますが、県内の重要な出来事等は、地域メディアアじやないと詳細がわからないですよ。地域メディアがなくなってしまうと、こういう細かい事柄が埋もれてしまい、分からなくなってしまう。例えば取材体制だけを残しても、全国へ発信する際にふるいにかけられてしまうと放送されない。

ただ、県内のPRになると、地域メディアから発信された物は地域の人にしか届かないので、どんなに美味しい物をPRしても、他の県の人が三重県のあの食べ物が美味しい、とはならない。地域の出来事を発信し、良い事柄は、全国へ発信できるように全国メディアへアピールする。地域と全国を結ぶ、情報発信の懸け橋となつて欲しいですね。

インタビューを聞いて

今回のインタビューを通じて、地方局という存在が地域の方々にとって、重要な役割を担っていることを再認識しました。日々のニュースや、災害報道など地域の公共放送に期待されていることを強く意識し、日々の業務に取り組む姿勢が求められていると痛感しました。

また、「日本」という国を改めて意識するためにも、文化・芸能に関する番組の強化が必要であると語られています。これは、公共放送であるNHKが率先して行わなければならない責任があると感じました。特に、地方に受け継がれている文化を、後世に伝えていくことは、地方局の重要な役割のひとつだと思います。

地方局が、今後も地域の情報発信、文化伝承の担い手として責務を全うすることが、人々と共に地域活性化に繋がるといふ思いを持ち続ける必要があると思いました。

報告 中部支部津分会会長 木村朋博

同副分会長 梶原典明

※3 「安乗文楽」
志摩市に、400年以上にわたり伝承されている伝統芸能の人形芝居。文禄元年、豊臣秀吉が企てた文禄の役に参加する際、志摩の国の国主 九鬼嘉隆が畔乗沖にさしかかると急に船が止まってしまった。嘉隆が安乗人神社に参拝し、戦勝を祈願したところ、風向きが変わり、船は追風に乗って無事出航することができ、戦役で武功をたて、再び安乗神社に御礼参りに訪れ、人形芝居を許したのが始まりと伝えられている。